

### 【授業の到達目標および概要】

「保健学総合講義」は1年前期に他の講義に先立って開講される保健学専攻の必修科目で、最初に保健学専攻の専任教員全員が、原則として100分授業を2回ずつ担当して行うものである。この講義を通して「保健学」の3領域で課題となっている事柄への理解を深め、視野を広げて、各人の研究に役立ててもらうことを目的とする。

なお、保健学専攻の専任教員全員による講義に加えて、プレゼンテーション・スキルアップ・セミナー（分かりやすく効果的なPPTの作成方法やプレゼンの仕方についての講習）、新しい倫理指針及びガイドラインの講義も実施する。

### 【授業計画】

- ①②川村 堅：環境物質のリスクアセスメントの一つにヒトの健康に関する評価がある。ヒトを対象とした疫学調査や動物実験の結果から評価することが多い。食物を含めた環境因子とがんの関係を例に、リスクアセスメントの概要について説明できるようになる。
- ③④新開省二：健康寿命とその関連要因を知ることは、科学的根拠に基づいた地域保健活動を展開する上で必須である。長期縦断疫学研究から導かれた「健康長寿新ガイドライン」の概要を理解するとともに、最新の地域保健活動の好事例を学ぶ。
- ⑤⑥緒方裕光：健康に対するリスク要因の影響を科学的に予測し適切な対策を立てることは、保健学における重要課題の1つである。科学的データ分析と理論に基づく定量的リスク評価とその応用について、具体例を挙げて解説する。
- ⑦⑧香川雅春：「キンアンソロポメトリー」とはなにか、そして健康・スポーツ医科学および公衆衛生学領域における活用の現状と課題について解説する。
- ⑨⑩金子嘉徳：国民個人や自治体、NPOなどが実践しやすく健康増進につながる運動方法と運動用具の開発、普及、評価、並びに公園を健康づくりの場としての利用の可能性について、これまでの実践活動、研究をふまえて解説する。
- ⑪⑫井越尚子：栄養学を学んだ臨床検査技師の在り方を追求することを課題とし、医療に関わる現状と問題を現場体験から探り、将来像を考察する。
- ⑬⑭福島亜紀子：ヒトゲノムが解析され、全ての生命現象が遺伝子レベルでの解析が進んでいる。食餌因子が腸管細胞の遺伝子発現に影響を及ぼすに至る過程を解析する方法や分子生物学的な研究の進め方について紹介する。
- ⑮⑯石橋健一：免疫は、恒常性に関わる生体システムの一つであり、健康維持や疾患の発症に関わっている。疾患の発症や発症予防に関わる免疫の働きについて学び、健康維持や医療と免疫の関わりについて紹介する。
- ⑰⑱遠藤伸子：学校保健とは何か、学校保健および児童生徒・社会的なニーズ等の変遷など、多面的な視点から論ずる。さらに現状における課題と今後取り組まれるべき学校保健関連の政策や対策について考察する。
- ⑲⑳田中茂穂：子どもにおける身体活動・座位行動や睡眠、食事といった生活習慣の評価法から様々な健康に与える影響などに関する知見を整理し、科学的な思考法を学ぶとともに、今後の課題を提示する。

②①深田耕一郎：健康を社会現象として理解することを出発点にして、「医療と福祉の社会学」と称する観点にもとづきながら、人びとの健康にアプローチする社会学的な理論と方法を学修する。

②③大沼久美子：世界でも類を見ないわが国の養護教諭制度及び養護教諭の歴史的背景、学校教育職員としての養護教諭の職務と役割、チーム学校に果たすこれからの養護教諭について養護実践研究をふまえ論じる。

②⑤ 文献検索・活用法

②⑦②⑧ プレゼンテーション・スキルアップ・セミナー

②⑨③⑩ 新しい倫理指針及びガイドラインの講義

**【授業外学習】**

社会の様々な側面をより科学的、客観的に捉えられるよう新聞等のニュースに注意を払い、世界の動向を察知し、幅広い分野への理解を深めるように心がけること。

**【成績評価の方法・基準】**

授業への参加態度およびレポート提出により評価する。

**【備考】**

文献検索・活用法、プレゼンテーション・スキルアップ・セミナー、新しい倫理指針及びガイドラインの講義についても必ず受講すること。